

2015年度

JICA研修コースの実績紹介

「環境教育」コース



2015年8月17日

(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

1. 研修コースの紹介

1) コースリーダー / 原口 清史

2) 研修コース 名

- 和文： 環境教育
- 英文： Environmental Education

3) 技術研修期間： 2015年5月15日 ~ 2015年6月23日

4) 参加研修員： 12名 (11カ国)

【参加国内訳】

- ①ブータン ②ボスニア・ヘルツェゴビナ ③エジプト ④コソボ ⑤ミクロネシア
⑥パラオ ⑦パレスチナ ⑧サモア ⑨セーシェル ⑩スリランカ ⑪ジャマイカ

【参加研修員の国名と位置】



世界の11カ国から派遣された12名の研修員の皆さんが、北九州市（JICA九州）に集まり、「環境教育」に関する技術研修に参加しました。

2. 研修目標

案件 目標

本邦研修を通じて策定された計画が実施される。



日本での研修



東部浄化センターで生活排水処理の
仕組みを見学

単元目標①

- 国および都市における環境教育の概要と政策について説明できる。

単元目標②

- 対象国に応じた環境教育の目標や学習内容の具体的な手法について説明できる。

単元目標③

- 地域リソースを活用した環境教育について説明できる。

単元目標④

- 環境教育の推進、環境意識向上のための計画を作成する。

3. 研修成果について

1) 案件目標を達成しましたか? (研修員への質問表より)

	←← 達成		未達成 →→	
	達成		未達成	
	□4	□3	□2	□1
案件目標	8	4	0	0

研修員のコメント

- 自分が関係する自然保護の活動方法が学べてよく理解できた。
- 小学校での活動を増やすのに役立った。
- 廃棄物管理のアプローチがとても良かった。
- アクションプラン作成スキルが向上した。

2) 単元目標を達成しましたか? (研修員への質問表より)

	←← 達成		未達成 →→	
	達成		未達成	
	□4	□3	□2	□1
単元1	7	5	0	0
単元2	7	5	0	0
単元3	9	3	0	0
単元4	9	3	0	0

研修員のコメント

- どのようにコミュニティーを環境保護に参加させているのか良く理解できた。
- 廃棄物管理と削減の重要性が理解できた。分別の重要性を教師や生徒に教える指針となる。
- 公害の歴史を学べば現在の国の状況がわかる。

4. 研修案件に対する所見

(1) 研修デザインについて

環境教育は次の3つのベクトル（流れ）を上手く組み合わせていくことが重要。

- ① 幼児から大人までの世代間を通じた学習（時間的な流れ）
- ② 個人、家庭、地域、市域としての広がりを持った学習（空間的な流れ）
- ③ 市民、企業、行政、NPOなど相互連携の学習（連携の流れ）

カテゴリーとしては、大気・水質・廃棄物・自然界など様々あり、全体のバランスを考慮しつつ過去研修経験から今回は廃棄物の削減等にややウエイトを置いた。

学校関係は、重要な位置を占めるので教育委員会、学校現場などを少し掘り下げて実施した。

(2) 研修内容について

各国研修員が单元ごとに自国で参考となる科目を選定した。時間や場所等の制約もあるが、現時点で効率的・効果的に研修が最大限発揮できる研修内容を組んだ。

(3) 研修の効果を高める工夫

研修員自らがリーダーを育成する立場にあることを常に意識させるため、地域住民、ボランティアや学生たちとの意見交換の場を持ち、どのような考えや意識を持っているかを学ばせるようにしている。



皇后崎焼却工場で子供達が学習している様子を見学



すがお小学校で子供達と田植えの体験

5. 研修員スピーチ

研修員の感動スピーチ (於：閉講式)



閉講式でスピーチされたデイソンさん(ミクロネシアから参加)

Mr. MARAR Dayson (通称:デイソンさん)の謝辞 ～研修員代表～

◆和訳全文をご紹介します。

私達は、あと何週間、何日、何分、何秒と数えてきました。

そして、ついにこの時がやってきました・・・。

この間に何人かは家族を恋しがり、何人かは、本当にここに留まりたいと思っています。

私達の感情は、悲しみと喜びが混ざり合っています。



古野理事長より修了証書が授与された
デイソンさん



私達の人生、未来を形作り、生活の一部となっていた場所を後にすることを、私自身は少しも悲しいとは思っていません。カフェの良い香りと明るいサービス、JICAや訪問先で受けた元気な挨拶、そして研修員としての経験をなつかしく思うでしょう。

優しく元気なコーディネーター、素晴らしいオフィサー、私たちの差異に負けずについてきてくださって申し訳なく思います。原口コースリーダー、そして今日はいらしていませんが、私たちに教授して下さった講師の方々、ありがとうございます。講義は環境教育に関することのみならず、セミナールームの壁を越えたものでした。本当にありがとうございます。

そして12か国から来た友人たち、ありがとう。素晴らしい時を過ごし、楽しくて笑いが止まらなくなったり、重要な講義を受けたり、異なる意見を戦わせたりしました。私達は多くの知識を得ました。それを国に持ち帰り、改善できたら良いと思っています。



人生は短いものです。猶予期間は過ぎ去り、私たちはインターネットを通じて、お互い友人であることを思い出すようにしなければなりません。時間も距離も離れるけれども、皆さんが日々の中で重要な役割を果たすことは変わらないでしょう。

距離は本当に友人を分かつものでしょうか？もし愛する誰かと一緒にいたいと思ったら・・・すでにその人のそばにいるのではないのでしょうか？

JICA（日本、所長様、スタッフの方や皆様）は寛大で、今後さらに寛大になるでしょう。ですが最も重要なことは、我々がここで強くならなければならないということです。





心、魂、信念、友情。皆さんが金銭的な面ですずんで犠牲になってくださったように、この世界のより良い未来の世代のために、己の利益のみだけでなく開発途上国全ての利益になるように務めます。

そして強い期待、晴れ晴れとした心、深い謙虚さと感謝の気持ちを胸に私たちは出発します。

皆さんは様々な信仰を持ち、おそらく別々の神ですが、ある意味本当は同じ神に祈っていることでしょう。

しかし、皆さん一人ひとりに言いたいです。私達は皆さんのことを常に記憶に留め、感謝の念を抱き続けるだけでなく、いつも心の中に留め祈りを捧げることでしょう。

ありがとうございました。

6. 研修思い出アルバム

JICA九州で講義



研修先訪問



スライドショー

クリックして写真集を
ご覧下さい

研修先訪問



研修先訪問

